

# International College of Surgeons Japan Section



2005. No.1 (平成17年)

## 国際外科学会日本部会ニュース

一般外科 消化器外科 心臓血管外科 胸部外科 産婦人科 整形外科 泌尿器科  
脳神経外科 頭頸部外科 形成外科 小児外科 耳鼻咽喉科 眼科 皮膚科 口腔外科 麻酔科等  
「すべてメスを持つ者」の会

### CONTENTS

#### \*中山恒明先生ご逝去

1. 第51回日本部会総会
  - (1)総会の様子
  - (2)議事録報告
  - (3)会計報告
  - (4)役員改選
  - (5)定款改定
  - (6)Young investigator's Award報告
2. 第52回日本部会総会会告
3. 日本部会事業報告
  - (1)日本外科殿堂の案内
  - (2)ホームページの案内



名誉会長 中山恒明 先生

〈略歴〉

- 明治43年 (1910年) 9月25日生
- 昭和 9年 (1934年) 3月 千葉医科大学卒業
- 昭和16年 (1941年) 5月 千葉医科大学第2外科助教授
- 昭和22年 (1947年) 3月 同教授
- 昭和24年 (1949年) 12月 千葉医科大学附属病院病院長 (2年)
- 昭和39年 (1964年) 10月 千葉大学医学部第2外科教授辞任
- 昭和40年 (1965年) 1月 東京女子医科大学客員教授  
同消化器病・早期がんセンター所長  
財団法人中山がん研究所所長
- 昭和41年 (1966年) 12月 ベルツ賞
- 昭和44年 (1969年) 2月 医療法人社団 中山会・湯河原胃腸病院理事長
- 昭和51年 (1976年) 3月 東京女子医科大学客員教授退任  
4月 同消化器病・早期がんセンター名誉所長
- 昭和57年 (1982年) 11月 勲一等瑞宝賞
- 昭和60年 (1985年) 4月 日本外科学会名誉会長
- 平成17年 (2005年) 6月20日 逝去 (享年94歳)

〈本学会歴〉

- 昭和37年 (1962年) 以前に入会、  
評議員・中央幹事歴任
- 昭和52年 (1977年) 10月 特別会員
- 昭和60年 (1985年) 10月 名誉会長

中山恒明先生—ご逝去

第14代国際外科学会世界会長 中山恒明先生には去る平成17年6月20日にご逝去されました。享年94歳。

国際外科学会は1935年Dr. Max Thorekにより創設されましたが中山恒明先生はThorek先生と深い親交を持っておられ日本の優れた外科を世界に広めるべく国際外科学会の舞台上で活動されました。1954年国際外科学会日本部会を設立、Secretary general として日本部会が整備されました。そして第1回の日本部会総会が塩田広重先生を会長として開催されました。永年の日本部会に対するご援助に対し深く感謝いたしますとともにご冥福をお祈りいたします。

日本部会会長 高崎 健

## \* 中山恒明先生ご逝去

TRIBUTE TO AN EXCEPTIONAL SURGEON  
PROFESSOR Komei NAKAYAMA  
ON BEHALF OF THE INTERNATIONAL  
COLLEGE OF SURGEONS

By Professor Earl OWEN, Past President, I.C.S.



One of the greatest and most admired surgeons that the world has ever known was the pioneering, most admired, and much loved Professor Komei NAKAYAMA.

Even far away from Japan in Sydney Australia I will never forget the first time I was privileged to meet this great man when I was just a Medical Student. The great Nakayama was invited to St Vincent's Hospital to do a series of Oesophageal and Gastric Operations on difficult cases, and I managed to be one of the very few students amongst the hundreds of surgeons who were spectators of his amazingly swift, deft, and remarkably smooth altogether new techniques. I was so impressed, I was inspired to become a surgeon.

Six years later Professor Nakayama was elected to become President of the International College of Surgeons, having been on the inaugural committee of the Japanese Section since 1954. When the various Sections of the I.C.S. were divided into 6 Federations, Professor Nakayama was elected the President of the Asian Federation in 1957. By 1960 visiting College Fellows, particularly well-known American surgeons, were astounded to observe the operations carried out by the remarkable Professor Nakayama in his own operating theatre in Japan in one morning session. In just three hours this great Surgeon performed four total gastrectomies, and a radical mastectomy. Since most surgeons at this time would have taken three hours to perform just one gastrectomy, the visiting American surgeons were impressed for their whole life. So it was not surprising that Professor Nakayama was honoured by the I.C.S. at a special College Dinner as the Surgeon of the Century in 1964. From 1960 onwards Professor Nakayama became more and more famous and honoured with the highest Awards from both his own Country, and many others. In 1968 he was in charge of the College's 16th Biennial World Congress in Japan. I was honoured to meet this great but humble Surgeon in several visits to Chiba, and on his occasional presence at surgical congresses in other places.

By 1982 the great man had decided to cease operating, and a huge Special Congress of the Japanese Surgical Society was dedicated to his Retirement, and held in a huge venue in Chiba. I was invited as one of the few International Visiting Professors to this splendid tribute to the greatest surgeon any of us had known. I will never forget the oration prepared from his life's work that was given by Professor Nakayama, nor the huge standing ovation given to him by his incredibly motivated colleagues, friends,

relatives, students and selected visitors, in that huge convention hall. And that ovation was when he appeared on the giant stage. When the audience finally settled down the Professor showed us all how remarkable his career progressed owing to his unique skills and intelligence and technical inventions.

At the end of an hour when he finished, he had a number of presentations made to him, and an enormous and prolonged farewell ovation that went on for more than ten minutes of cheering, stamping and singing by the thousands of us present. Anything following that presentation would have been superfluous, but it was only ten o'clock, and I was called onto the stage to present the next paper! How could anyone expect to be listened to after those celebrations to ecstatically honour the greatest surgeon in anyone's lifetime!

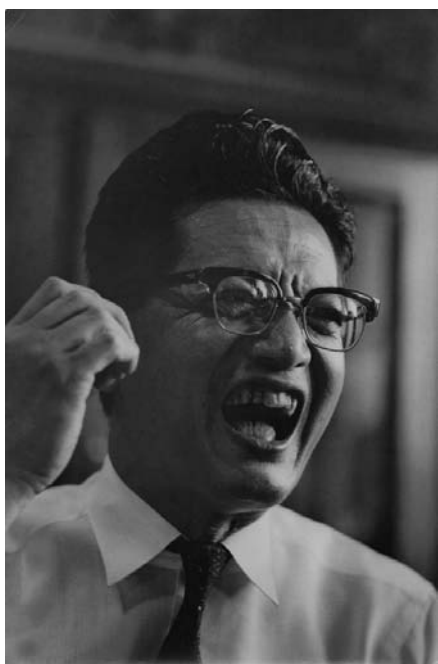
I expected that most of the enormous assembled crowd would leave the convention hall rather than stay for an anticlimax, but was astounded that the entire audience stayed put, and actually listened to my presentation, which was one of the first ever on the new field of microsurgery. To this day I suspect that my friend Professor Nakayama, being the absolute wise gentleman that he always was, was so tactful that he requested the audience to stay as he left.

Since that memorable day we have all been aware of the activities and honours and variety of things done and achieved by professor Nakayama until his final illness.

To the thousands of Fellows of this College with whom he came into contact, and whom he inspired, Professor Nakayama was the ideal Super Surgeon. He was a great credit to Japan, to Japanese surgery, to the International College, and to the dozens of Associations and Societies and Colleges with whom he was associated and whom he taught.

We mourn the death of this most remarkable, most gifted, and most revered surgeon of all of our lifetimes! We extend our sympathy but also our gratitude to the family and to his dearest friends.

Professor Earl Owen, President of the I.C.S. 1996-1998, A.O., M.S., M.D., D.Sc., F.R.A.C.S., F.R.C.S., F.I.C.S.



## 中山恒明先生を追悼して

中山恒明先生が去る2005年6月20日に逝去されました。個人的には、千葉大学時代から外科医としての道における畢生の恩師であります。

先生は1910年9月25日神田生まれ、本年で満94歳8ヶ月でありました。官立新潟高等学校さらに千葉医科大学に入学され、1934年に大学卒業、直ちに瀬尾外科教室に入局し外科学を専攻されました。1941年には36歳で教授に就任されました。1964年に退任され、1965年からは東京女子医科大学客員教授に迎えられ、消化器病・早期ガンセンター所長として活躍されました。

先生の学問業績は枚挙に遑ありませんが、中山式後壁固定によるB-J法胃切除術、胸壁前食道胃吻合術、術前照射、消化吸収試験、頸動脈腺の外科、動脈注射療法など、いずれも卓抜なる発想、理念に基づいたものであり、同時に新しい手術器具の開発にも貢献されました。なかでも中山式胃腸吻合器は、世界的に有名な一つでもあります。

先生の学会における活動は、正しく超人的であり、日本外科学会、日本胸部外科学会、日本気管食道科学会のほか、その後の日本癌治療学会、日本消化器外科学会、食道疾患研究会（現 日本食道学会）、国際食道疾患会議（ISDE）などは先導者となって創設された学会であります。国際人として海外での活躍も多く、交流で得られた見聞を日本の学会に反映させたものと言えます。

その一つとして、国際外科学会（ICS）との関係があります。先生は日本部会発足の頃から塩田広重部長の下で発展に努力されました。創設者のMax Thorek先生も千葉大学、で中山先生の手術を見学されたことがありました。1964年からの2年間は、国際外科学会会長として重責を果たされ、後進への道を拓かれ今日に至っております。シカゴ本部の記念館の日本室は最近、充実されましたが、そこに掲げられた華岡青洲の絵には、それを寄贈された当時の中山先生自身の気概が籠められているように感じます。

先生のところには、国の内外から実に多くの見学者、研修留学生が訪れましたが、その恩恵で医局員にも多くの友人が得られました。

偉大なる先生は1982年勲一等瑞宝章を授与されました。

「何事もまず始める事だ。始めて止めなければ、必ず成功する」また「人生は経験である」との信条を常に教え込まれました。ここに先生の垂訓を念じつつ、ご冥福を祈ります。

（2005年7月16日 鍋谷欣市 杏林大学名誉教授）



# 1. 第51回日本部会総会

## (1) 総会の様子 第51回国際外科学会日本部会総会 事務局 桂巻 正



第51回国際外科学会日本部会総会は5月28日に京王プラザホテル札幌で開催されました。今回は演題が64演題集まり、盛況のうちに総会を終えることができました。参加者はお陰様で延べ人数で143名に達しました。特別講演は前京都大学移植外科教授の田中紘一先生をお招きして肝移植に関するご講演をいただき、ランチョンセミナーでは東海大学乳腺・内分泌外科教授の徳田 裕先生をお招きして乳癌に関する講演を賜りました。また、肝移植・肝細胞移植をテーマに応募していただいた演題から4演題を取り上げてシンポジウムを行いました。本学会は若い先生や国内に留学されている先生の国際外科学会発表の練習になるようにとの配慮で、東京医科大学国際医学情報センターのパロン先生、ブルーヘルマンス先生に英語発表に対してコメントをいただきました。このコメントが大変好評で、他の学会では経験できない英語発表の仕方に対する専門的なアドバイスを得られることが本学会の大きな特徴となっております。従いまして英語が不得意な先生も気兼ねなく発表していただけたと思います。前日の懇親会も理事、幹事、座長等の先生方にお集まりいただき、北海道に縁のある曲のバイオリン、ピアノの演奏をお楽しみいただきながら、和やかな雰囲気で行われました。発表者への英語発表に対するコメントが本学会の特徴ですが、座長に対しても英語での司会に対するコメントを行ってほしいという冗談も飛び交っておりました。閉会式では全発表者から5名が会長賞に選ばれ表彰されました。そのうち2名が国内に留学されている先生が含まれており、閉会式終了後に指導者の先生とお仲間の先生方で壇上で記念写真を撮られていたのも印象的でした。天候もよく、初夏の札幌をお楽しみいただきながら盛会のうちに総会を終えることが出来ました。総会事務局担当者として関係各位の先生方に深謝申し上げます。

## (2) 議事録報告 平成17年度第1回国際外科学会日本部会理事・幹事会議事録

日時:平成17年5月27日17:30-18:30 場所:京王プラザホテル札幌

札幌市中央区北5条西7丁目Tel. (011) 271-0111

1. 前回議事:平成16年6月18日開催の会議の議事録が報告された。
2. 事務報告:報告された。総会での発表者の未入会が指摘された。  
会計報告:報告された。平澤監事から監査報告された。
3. 事業報告:シカゴ本部外科殿堂日本室のオープンが報告され、当日のビデオが供覧された。
4. 「The Japan Surgery Hall of Fame」選考委員会からの報告
  - 4-1. Opening Ceremonyの報告:報告と当日のビデオが供覧された。
  - 4-2. 審議委員会の設置:顕彰者を厳正に選考する為に、現在の「The Japan Surgery Hall of Fame」選考委員会の上に有識者から成る「審議委員会」の設置が検討され、審議委員に諾否を伺って、委嘱される。  
審議委員(案);阿部令彦、遠藤光夫、鍋谷欣市、掛川暉夫、平澤泰介、玉置哲也、高崎 健、高田忠敬、  
薬師寺道明、羽生富士夫、中村 宏
  - 4-3. 選考の方法:理事・幹事から今年度中に推薦頂く。(6ヶ月以内)選考を行う。(2ヶ月間以内)その結果を審議委員会で検討する。(顕彰者の承諾を得る)銅板の製作を行う(通常3ヶ月を要す)
  - 4-4. “2005 Young Investigator Award” 選考:総会会長の総会賞受賞者の中から、選考委員長が選考する。受賞者は名前、所属、演題が銅板に刻まれ、シカゴの日本外科殿堂に5年間展示される。
  - 4-5. その他:Young Investigator Awardの受賞者の発表が論文となっていないことが指摘された。論文が望ましいので更に検討する。
5. 合同委員会からの報告と協議事項:
  - 5-1. 組織委員会関連
    - (1) シカゴ本部役員(2005~2006):昨年10月エクアドルの会議で決定した。
    - (2) 日本部会役員、委員会委員(案)(2005.1.1~2006.12.31):組織委員会案が提出され、承認された。理事・幹事会に提出される。
    - (3) シカゴ本部名誉会員の推薦:薬師寺道明先生を推薦する。日本部会名誉会員:該当する先生はいない。
    - (4) 特別会員の推薦:次ぎの先生が推薦された。(敬称略)小川道雄、小柳泰久、武田仁良、今村正之、内田雄三、小平 進、斉藤和好、田島知郎、玉置哲也、野田進士、山岡義雄  
理事・幹事会に提出、承認を受け、本人の諾否を伺って決定される。
  - 5-2. 財務委員会関連
    - (1) 平成16年度収支決算報告:収支報告書が検討された。会費収入が減少しているので、対策を検討する。
    - (2) 滞納者への会費請求:早急に入金を依頼。期日までに入金されない場合は退会とみなす。
    - (3) 企業寄付:会費の納入が減少しているので、企業寄付をお願いする。
  - 5-3. 将来検討委員会関連
    - (1) 会のプロパガンダ:
      - \*ニュースの再開;ホーム・ページに掲載しているが、独自のニュースも作るようになった。
      - \*ホーム・ページのリニューアル;ホーム・ページをもっとわかり易く作り直すことになった。
    - (2) 学術集会:留学生の調査;毎年全国のおもな施設にアンケートをお願いしている。学会での発表も増えた。今年は2名が総会会長賞と学会賞を授与された。今後も調査を継続して実施する。
  - 5-4. 国際交流委員会関連:
    - (1) 第17回アジア・太平洋合同部会総会(24-27 Nov. 2005, インド、ムンバイ):総会会長より、日本の会員の発表依頼があった。参加、発表希望者がいらっしゃれば、推薦文をつけて総会事務局に送るので、日本部会事務局にご連絡頂きたい。
    - (2) 第17回南米部会総会(10-11 Nov. 2005, 於:ペルー):総会会長より、日本の会員の発表依頼があった。参加、発表希望者がいらっしゃれば、推薦文をつけて総会事務局に送るので、日本部会事務局にご連絡頂きたい。
    - (3) 第35回世界総会(2006、於:タイ、プーケット):来年開催されるが、役員の変更等もあるので、日本から沢山参加、発表して頂きたい。(別項参照)

5-5. 生涯教育委員会関連:

- (1) 英語での発表(質議も含む):留学生の参加で英語での発表が意義あるものとなっている。外人講師による指導コメントも大変好評である。
- (2) ジャーナル「International Surgery」への投稿:日本からの投稿は推薦文をつけて送るので、是非沢山お願いしたい。特に学会賞受賞者の論文は投稿を勧める。
- (3) 本部スカラシップ:存在が知られていないのでニュース、ホーム・ペムジ等で宣伝する。役員の先生も教室の若い医師にお勧めいただきたい。

5-6. 規約委員会

- (1) 定款の改定:改定案が提示された。理事・幹事会に提出される。(別項参照)

6. “2005 Young Investigator Award” 選考委員会:総会会長受賞者から、選考される。(別項参照)

7. 第52回日本部会総会会長の件:安田秀喜教授(帝京大学市原病院外科)が主催される。会期:2006年6月3日(土)  
会場:京王プラザホテル東京

8. 第53回日本部会総会会長の件:候補者はなかったので、役員にご推薦をお願いする。

9. 第17回アジア・太平洋合同部会総会の件:(前出)

10. 第35回世界総会(2006年、タイ)の件:(前出、別項参照)

11. 会計年度の変更:現行の会計年度は1月1日~12月31日となっている。ほぼ半年が経過してから会議がひらかれるので不都合がある。新たに、新会計年度 4月1日~3月31日が提案され、承認された。平成18年度から変更される。



**(3) 会計報告**

会計報告(国際外科学会日本部会)  
自 平成16年 1月 1日  
至 平成16年12月31日

**経常収入の部**

(単位:円)

科 目	平成16年度予算案	平成16年度実績	平成17年予算案
前期繰越	5,695,474	5,695,474	5,159,246
入会金	10,000	10,000	10,000
会費収入	6,800,000	6,535,000(注1)	6,500,000(注2)
企業寄付収入	2,400,000	1,650,000	4,500,000
個人寄付金収入	0	1,000,000	0
広告収入	0	0	150,000
博物館準備収入	0	200,000	800,000
受取利息等	10,000	115,029	10,000
	14,915,474	15,205,503	17,129,246

(注1) 平成16年度会費収入の内訳は、fellow 6,020,000円 日本部会会員515,000円です。

(注2) 会費収入予算の内訳は、fellow6,000,000円 日本部会会員500,000円です。

**経常支出の部**

(単位:円)

**1. 米国本部送金**

科 目	平成16年度予算案	平成16年度実績	平成17年予算案
入会金	50,000	68,093	100,000
会費	2,500,000	3,974,428	3,700,000
	255,000	4,042,521	3,800,000

**2. 日本部会運営費**

(単位:円)

科 目	平成16年度予算案	平成16年度実績	平成17年予算案
日本部会総会補助費	500,000	500,000	500,000
留学生補助費	200,000	200,000	200,000
会議費	150,000	286,366	200,000
給料手当	3,840,000	1,920,000	2,400,000
法定福利費	450,000	663,116	224,452
旅費交通費	120,000	90,420	100,000
国際会議出張費	100,000	100,000	100,000
通信費	250,000	323,745	300,000
印刷コピー費	200,000	248,605	250,000
事務用品費	50,000	49,287	50,000
会計顧問料	222,222	222,222	222,222
中小企業退職積立金	240,000	240,000	60,000
ホームページ広報費	200,000	140,600	400,000
支払手数料	10,000	3,795	0
備品消耗品	30,000	0	0
博物館維持費	0	1,000,000	1,000,000
雑費及び予備費	100,000	15,580	0
小計	6,662,222	6,003,736	6,056,674
1+2の計	9,212,222	10,046,257	9,856,674

博物館準備設置費			2,500,000
経常支出合計	9,212,222	10,046,257	12,356,674
差引次期繰越金	5,703,252	5,159,246	4,772,572
次期繰越金の内訳			
みずほ銀行当座預金		4,055	
郵便振替貯金		389,150	
郵便定期貯金		5,445,000	
UFJ銀行普通預金		871,018	
UFJ銀行普通預金賛助口		3,450,023	
基本金		-5,000,000	
差し引き計		5,159,246	

#### (4) 役員改選

##### 国際外科学会日本部役員(2005.1.1～2006.12.31)

###### 名誉会長

会長 高崎 健 (東京女子医科大学消化器外科教授)

前会長 掛川 暉夫 (福祉国際親善総合病院院長)

監事 中川原儀三 (福井医科大学名誉教授)

鈴木 茂 (東京女子医科大学名誉教授)

平澤 泰介 (明治鍼灸大学大学院教授)

筆頭理事 北島 政樹 (慶応義塾大学医学部外科教授)

常任理事 麻生 武志 (東京医歯科大学大学院医歯学総合研究科〔産婦人科〕教授)

跡見 裕 (杏林大学医学部第1外科教授)

石井 延久 (東邦大学医学部泌尿器科教授)

冲永 功太 (帝京大学医学部外科教授)

落合 和徳 (東京慈恵会医科大学産婦人科教授)

炭山 嘉伸 (東邦大学医学部第3外科教授)

高田 忠敬 (帝京大学医学部外科教授)

平澤 博之 (千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学教授)

藤岡 知昭 (岩手医科大学泌尿器科教授)

村井 勝 (慶応義塾大学医学部泌尿器科教授)

笹子三津留 (国立がんセンター中央病院外科)

加藤 治文 (東京医科大学外科第一講座教授)

原口 義座 (国立病院東京災害医療センター)

上田 守三 (東邦大学医学部脳神経外科教授)

常任幹事 山本 雅一 (東京女子医科大学消化器外科教授)

理事 井上 一知 (京都大学再生医学研究所／器官形成応用分野教授)

岩井 武尚 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医学部血流・血管応用外科学教授)

小田 恂 (東邦大学医学部耳鼻咽喉科教授)

落合 武徳 (千葉大学大学院医学研究院応用外科教授)

兼松 隆之（長崎大学医学部第2外科教授）  
亀岡 信悟（東京女子医科大学第2外科教授）  
小林 展章（愛媛大学医学部第1外科教授）  
坂本 純一（京都大学大学院医学研究科疫学研究情報管理学講座教授）  
嶋田 紘（横浜市立大学医学部第2外科教授）  
白水 和雄（久留米大学医学部外科教授）  
砂川 正勝（独協医科大学医学部第1外科教授）  
田中 紀章（岡山大学大学院医歯総合研究科消化器・腫瘍外科分野教授）  
土屋 了介（国立がんセンター中央病院外科）  
時田 信博（伊佐沼クリニック耳鼻咽喉科）  
豊坂 昭弘（ベリスタ病院院長）  
畑瀬 哲郎（公立八女総合病院）  
平田 公一（札幌医科大学第1外科教授）  
平野 達雄（センタービルクリニック）  
幕内 雅敏（東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学教授）  
真辺 忠夫（名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部病態外科学教授）  
益子 邦洋（日本医科大学附属千葉北総病院救急医学部）  
阿部 宗昭（大阪医科大学医学部整形外科教授）  
杉山 徹（岩手医科大産婦人科教授）  
前田耕太郎（藤田保健衛生大外科教授）  
黒澤 博身（東京女子医大心臓血管外科）  
幹 事 有井 滋樹（東京医歯大分子外科治療学教授）  
安藤 暢敏（東京歯科大学市川病院外科教授）  
苟原 稔（徳島大学医学部産婦人科教授）  
入山 圭二（桑名市民病院院長）  
緒方 裕（久留米大学医学部第1外科助教授）  
桜木 範明（北海道大学大学院医学研究科生殖・発達医学教授）  
篠沢洋太郎（東北大学大学院医学系研究科・医学部麻酔救急医学教授）  
高木 正剛（聖ヨゼフクリニック）  
高山 忠利（日本大学医学部消化器外科教授）  
竹下 公矢（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科光学医療診療部助教授）  
丹治 進（岩手医科大学泌尿器科）  
角田 司（川崎医科大学消化器外科教授）  
寺本 龍生（東邦大学医学部第一外科教授）  
松本 純夫（国立病院機構東京医療センター）  
丸山 一男（三重大学医学部麻酔科教授）  
山岸 久一（京都府立医科大学外科教授）  
山口 明夫（福井医科大学第1外科教授）  
青柳慶史朗（久留米大学医学部外科）  
安田 秀喜（帝京大学市原病院外科教授）  
事務局幹事 清水 公一（東京女子医科大学消化器外科）  
顧 問 阿部 令彦（慶応義塾大学医学部名誉教授）  
遠藤 光夫（東京医科歯科大学医学部名誉教授）

田中 隆（日本大学医学部名誉教授）  
鍋谷 欣市（杏林大学医学部名誉教授）  
アドバイザー J. P. Barron（東京医科大学国際医療情報センター教授）

第51回総会会長 平田 公一（札幌医科大学医学部第1外科教授）  
第51回総会幹事 桂巻 正（札幌医科大学医学部第1外科助教授）  
第51回総会幹事 秦 史壮（札幌医科大学医学部第1外科）  
第51回総会幹事 山口 浩司（札幌医科大学医学部第1外科）

第52回総会会長 安田 秀喜（帝京大学市原病院外科教授）  
第52回総会幹事 山崎 将人（帝京大学市原病院外科）  
第52回総会幹事 手塚 徹（帝京大学市原病院外科）

## (5) 定款改定

### 国際外科学会日本部会定款(改定)

(目的)

第1条 本会は国際外科学会の日本部会であって、外科医学の進歩発達を図り、医師の生涯教育を行うことを主旨とし、国際団体を通じて世界の各国と知識の交換を計ることを目的とする。

(名称)

第2条 本会は国際外科学会日本部会(以下本会という)と称する。

(会員)

第3条 会員は日本部会正会員(以下正会員)、名誉会員、特別会員、施設会員からなる。施設会員は施設代表者の名前で登録する。

第4条 正会員及び施設会員として入会を希望する者は、本会規定の申込書に所定事項を記載し、本会事務局に申込み理事会の承認を受ける。

第5条 本会のために特に功労のあった者が原則として65歳となったとき、日本部会名誉会員、特別会員となることができる。日本部会名誉会員、特別会員は会長が推薦し、総会の承認を受ける。

(旧第6条を14条へ)

第6条 退会者は必ずその旨を本会事務局に届け出るものとする。

(役員)

第7条 本会は役員として会長1名、理事若干名、監事若干名、幹事若干名、総会会長1名を置く。

第8条 会長は理事会で推挙され、総会において承認を受ける。理事、監事、幹事は会長が正会員の中から委嘱し、その任期は年で再任をさまたげない。会長は理事の中から若干名の常任理事を指名する。総会会長は正会員の中から理事会が推薦し、総会の承認を受ける。任期は1年で再任を認めない。原則として65歳をすぎたる者は役職につかない。但し会長を除く。

第9条 会長及び理事、監事、幹事、総会会長、は総べて奉仕とする。

第10条 会長は本会を代表し、これを総括する。

会長に支障ある場合は、常任理事が互選で代行者を選びこれを代行する。

第11条 理事は会長を補佐し、本会の一切の役務を処理する。幹事は理事を補佐する。

第12条 監事は本会の業務を監査する。

第13条 総会会長は学術集会を主催する。

(国際外科学会Fellow、国際外科学会名誉会員)

第14条 国際外科学会Fellowは会長が正会員の中から推薦する。国際外科学会名誉会員は会長が推薦し本部申し入れその決定を受けるものとする。

(会費)

第15条 会員は別に定める細則により年会費を納入する。

第16条 本会の会計年度は1月1日より12月31日までとする。事務局は理事会、総会に会計報告をする。

(旧15条削除)

(日本部会総会)

第17条 本会総会は下記の規定による。

総会規定

第1項 毎年1回本会総会を開催する。

第2項 本会総会構成は会員をもってする。

第3項 学術総会の発表は会員に限る。ただし、会員外のものでも総会会長の許可を得れば学術総会において発表することができる。

(国際総会及び外国部会への出席)

第18条 国際総会、連合部会及びその他の各国の部会に出席しようとする者は、日本部会会長の指す期日迄に抄録を添えて日本部会事務局に申し込むこととする。会長、理事もしくは幹事の外国部会への出席については、本会より補助することができる。

(定款の変更)

第19条 本定款の変更を要することがあれば理事会に於いて決定し、本会総会に於いて承認をうける。

(事務局)

第20条 本会事務局は東京女子医科大学、消化器病センター内に置く。

住所:〒162-8666東京都新宿区河田町841

電話:(03)335348111 直通電話/FAX;(03)3358-1424

細則1 国際外科学会Fellowとしての会費は2万円を納める。ただし役員は当分の間3万円を納める。また途中退会するものの会費は返却しない。2年以上会費滞納のFellowは退会とするが、その2年間の会費を完納しなければならない。

2 正会員は入会金5千円、年会費5千円を納める。2年以上会費滞納の場合は退会とみなす。また途中退会をする者の会費は返却しない。

3 施設会員は入会金 円、年会費 円を納める。2年以上会費滞納の場合は退会とみなす。また途中退会をする者の会費は返却しない。

4 名誉会員、特別会員は年会費を免除する。

付則 本定款は昭和54年2月10日より実施する。

昭和63年9月24日より一部改正。

平成元年9月22日より一部改正。

平成8年1月1日より一部改正。

平成11年11月6日より一部改正。

平成12年11月11日より一部改正。

平成17年5月28日より一部改正。

### 申し合わせ事項

1. 名誉会員は総会会長及びシカゴ本部役員の実験者で長期に渡り会に功勞があり、かつ原則として、65歳になった時、その後の会員として会費(本部会費)を負担する意志のある人のなかから会長が推薦する。
2. 特別会員は役員として功勞があり、原則として65歳になった時、その後も会員として会費(本部会費)を負担する意志のある人のなかから会長が推薦する。
3. 顧問は名誉会員、特別会員の中から選び、特に日本部会の運営に指導的立場をいただく方を日本部会会長が推薦し、常任理事会、理事・幹事会に出席していただく。ただし議決権はない。
4. 会議の構成。  
委員会:委員長、委員、会長(議決権なし)、常任幹事(議決権なし)  
常任理事会:会長、筆頭理事、常任理事、常任幹事、監事(議決権なし)、顧問(議決権なし)  
理事・幹事会:会長、筆頭理事、常任理事、理事、常任幹事、幹事、監事(議決権なし)、顧問(議決権なし)
5. 日本部会夫人の会及び夫人の会会長  
日本部会に日本部会夫人の会を置く。会員は日本部会会員の夫人、その家族で構成される。夫人の会会長は会員の互選で決定する。

### 本申し合わせ事項は

- 平成 5年 1月 1日より実施する。
- 平成11年11月 6日より一部改正。
- 平成12年11月11日より一部改正。

## (6) Young Investigator Award報告

第51回国際外科学会日本部会総会で、優秀な御発表をされた5名の方がYoung Investigator Awardに選ばれました。5名の発表者のお名前、御所属、演題タイトル名は、国際外科学会シカゴ本部外科歴史博物館「日本外科殿堂」に掲示されます。

### **Labile Togba SOUMAORO**

**Dept. of Surg. Oncology, Graduate School Tokyo  
Medical and dental University**

**“Significance of 5-lipoxygenase expression in human  
colorectal neoplasms”**



### **Shujiro OGOU**

**Dept. of Surgery, Kurume University**

**“Recto-anal functions after low anterior resection with anal  
preservation technique of sphincteric resections for lower rectal  
cancer”**



### **Kenichiro IMAI**

**Dept. of Surgery, Institute of Gastroenterology, Tokyo Women's  
Medical University**

**“Favorable surgical survival of patients with periductal  
infiltrating intrahepatic cholangiocarcinoma without jaundice”**



### **Alejandra Soto-GUTIERREZ**

**Dept. of Surgery, Okayama Univ. Graduate  
School of Medicine and Dentistry**

**“Differentiation of mouse embryonic stem cells using a deleted  
variant of hepatocyte growth factor ”**



### **Daisuke KUDO**

**Dept. of Urology, Iwate Medical University School of Medicine**

**“Success of transpubic excision and anastomosis for strictures of  
posterior urethra due to the pelvic fracture”**



## 2. 第52回日本部会総会

安田秀喜教授（帝京大学市原病院外科教授）のお世話で下記の様に開催の予定です。

会期：2006（平成18）年6月3日（土）

場所：京王プラザホテル東京

総会幹事：山崎将人先生、手塚 徹先生

総会事務局：千葉県市原市姉崎3426-3、〒299-0111 帝京大学市原病院外科

TEL：0436-62-1211 FAX：0436-61-3961

昨年同様に学会賞“2006 Young Investigators Award”が選考されます。沢山のご発表をお願い申し上げます。また、例年通り留学生の方々へもご参加を呼び掛けるので、留学生が勉強されている施設はぜひ参加、発表をお勧め下さい。

**第52回** The 52nd Annual Meeting of the Japan Section  
of the International College of Surgeons

# 国際外科学会 日本部会総会

会期 **2006年6月3日(土)**  
会場 **京王プラザホテル東京(新宿)**  
会長 **帝京大学市原病院外科 安田 秀喜**  
連絡先 **第52回 国際外科学会日本部会総会  
準備室**  
電話 **03-3508-1214**  
FAX **03-3508-1302**

学会HP **<http://www2.convention.co.jp/ics52>**



## 3. 日本部会事業報告

### (1) 日本外科殿堂の案内

国際外科学会(本部シカゴ)は1935年に設立され、現在44の支部会(国単位)、会員数14000人で構成されています。「すべてメスを持つ者の会」として、一般外科、消化器外科、胸部外科、心臓血管外科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科、整形外科、形成外科、小児外科、耳鼻咽喉科、眼科、麻酔科、放射線科等の多くの領域が参加しています。



(写真1)



(写真2)

(ホームページ<http://icsglobal.org/aboutus/index.asp>、<http://www.ics-japan.org/>)

国際外科学会シカゴ本部外科歴史博物館は、喧騒なシカゴ市中心部よりややはずれた閑静な地域にあり、正面にミシガン湖を見渡せる絶好の場所に建っています(写真1、2)。内部には外科の歴史を一般の方に広く知ってもらう目的で、さまざまな企画・展示が行われており、日本部会では以前から日本での外科の歴史・発展を知ってもらう目的で、The Japan Roomにて展示を行ってきました。

このたびThe Japan Roomは、2005年3月19日に改装を終了し、「日本外科殿堂」として新たにオープンを迎えました。当日19日シカゴの空は快晴となり、日中の気温はこの季節としては暖かい摂氏8度前後となり、過ごしやすい1日となりました。午後5時より内覧会がスタートし、シカゴ在住の日本人・日系人・米国人合わせて200名以上の方々が、博物館を訪れました。日本からも、華岡青洲生誕地である和歌山県那賀町から東健児町長以下8名の方々がおいでになり、札幌からは立花司医師(特別会員)が娘さまと同伴にておいでになりました(写真3)。



(写真3)

博物館内には寿司・そばやドリンクバーが用意され、日本外科殿堂をご覧になった方々が食事やドリンクを取りながら歓談する和やかな雰囲気、内覧会は進んでいきました(写真4)。午後6時から国際外科学会 executive directorであるMax Downham氏が司会で、オープニング式典が開始されました(写真5)。外科歴史博物館・国際外科学会の歴史・背景など簡単に紹介された後、国際外科学会前世界会長であり外科歴史博物館館長をされているRaymond Dieter氏から、日本外科殿堂オープンに対してお祝いの言葉をいただきました(写真6)。日本部会会長である高崎健氏から日本外科殿堂での企画・展示の説明、華岡青洲および和歌山県那賀町の説明がありました(写真7)。ついで和歌山県那賀町町長の東健児氏より華岡青洲先生ご業績の紹介とご挨拶をいただき式典も盛大のうち終了いたしました(写真8)。

ぜひシカゴへおこしの際は外科歴史博物館へお立ち寄りになり、日本外科殿堂をご覧ください。



(写真4)



(写真5)



(写真6)



(写真7)



(写真8)

#### 日本外科殿堂展示一覧

- (1) 国際外科学会日本部会歴代会長名掲示パネル
- (2) 国際外科学会日本部会役員名掲示パネル
- (3) Young Investigators Award Winnerパネル
- (4) 中山恒明賞コーナー
- (5) 中山恒明コーナー
- (6) 華岡青洲コーナー
- (7) 日本外科殿堂顕彰者コーナー
- (8) 超音波検査装置の開発・歴史コーナー  
(協力:アロカ株式会社)
- (9) 縫合糸の歴史コーナー  
(協力:ジョンソンアンドジョンソン)
- (10) 自動吻合器の開発・歴史コーナー  
(協力:タイコヘルスケアジャパン株式会社)

[部屋全体の写真]



国際外科学会日本部会歴代会長名揭示パネル



国際外科学会日本部会役員名揭示パネル

[中山恒明コーナー]

中山恒明先生のご業績を顕彰しています。



[中山恒明賞コーナー]



中山恒明賞受賞者名を揭示したコーナーです

[日本外科殿堂顕彰者コーナー]

以下8名の方々のご業績が、日本外科殿堂内に銅版プレートで顕彰されました。

**The First Successful Pancreatography in the World**

**Itaru Ooi, MD, PhD**

**The Birth of the Gastrocamera**

**The Gastrocamera Team**

**Applications of Thermography in Neurosurgery**

**Morikazu Ueda, MD, PhD**



**The First Institution to Perform 1000 Pancreatoduodenectomies**

**Institute of Gastroenterology, Tokyo Womens Medical University**

**Systemic Subsegmentectomy and Hepatectomies Preserving the Inferior Right Hepatic Vein**

**Masatoshi Makuuchi, MD, PhD**

**Kasais Procedure**

**Morio Kasai, MD, PhD**

**The Birth of Ultrasound Diagnosis**

**Toshio Wagai, MD**

**Successful Endoscopic Examination of The Entire Gastrointestinal Tract by The Ropeway Method (Docking of The Enteroscope and The Colonoscope)**

**Hideo Hiratsuka, MD**

### [超音波検査装置の開発・歴史コーナー]

超音波検査装置の開発・歴史を説明するパネルや、初期の超音波検査装置のプロトタイプを展示しています。

### [縫合糸の歴史コーナー]

縫合糸の歴史を説明するパネルが展示されています。

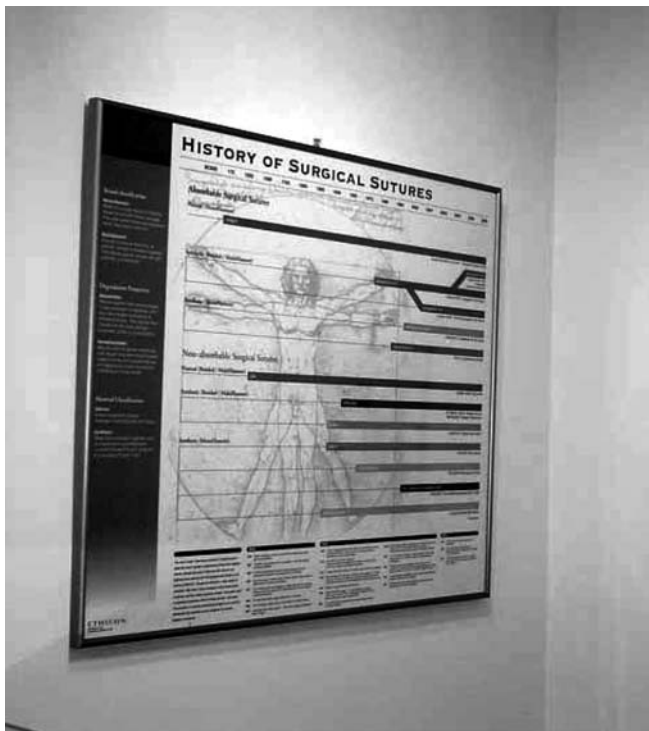


### [自動吻合器の開発・歴史コーナー]

中山式、峯式に始まる自動吻合器の開発・歴史を説明し、吻合器を展示するコーナーです。

### [華岡青洲コーナー]

全身麻酔薬である「通仙散」を開発し、1804年10月13日に、世界で始めて全身麻酔に成功し、乳癌の摘出手術を行った華岡青洲先生のご業績を紹介するコーナーです。小説「華岡青洲の妻」で紹介された、華岡青洲が妻加恵に全身麻酔薬「通仙散」を投与するシーンの絵や業績を紹介するパネルが展示されています。



## (2) ホームページの案内

現在、国際外科学会日本部会ホームページを全面リニューアルするべく作業をすすめております。より見やすく魅力的なものへと生まれ変わる予定ですのでお待ちください。全面リニューアル公開は、2005年8月を予定しております。

**国際外科学会日本部会**  
International College of Surgeons Japan Section

国際外科学会本部  
お問い合わせ

お知らせ／ニュース  
概要／沿革  
歴代会長  
日本部会開催史  
名誉会員／特別会員  
日本部会役員  
役員  
理事  
幹事  
顧問・アドバイザー  
各種役員会委員  
本部役員活動  
会則  
会員名簿  
入会／会員制度  
入会申し込み書PDF  
Fellowへの移行／シニア会員について  
スカラシップ制度  
MUSEUM  
TOPページ

**お知らせ／ニュース**

更新日 2005.07.01

**NEW** 2005.07.01  
国際外科学会日本部会サイトをリニューアルしました。

**NEW** 2005.07.01  
第34回世界総会の開催日が変更になりました。詳細はこちらをご覧ください。

**NEW** 2005.07.01  
第51回国際外科学会日本部会総会ご案内。

**国際外科学会日本部会ニュース/バックナンバー**

**2004 No.3**  
第51回国際外科学会日本部会総会のご案内  
第34回世界総会の報告

**2004 No.2**  
ここに内容が入ります

**2004 No.1**  
第50回国際外科学会日本部会総会のお知らせ  
MUSEUM-日本外科殿堂が新装されました

**2003 No.2**  
高崎会長就任御挨拶  
第49回日本部会総会の報告

**2003 No.1**  
第50回国際外科学会日本部会総会のお知らせ  
International Executive Council Member  
(2003 - 2004)

**International College of Surgeons Japan Section**  
東京女子医科大学 消化器病センター内 国際外科学会日本部会 〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1  
Tokyo Women's Medical University Institute of Gastroenterology  
8-1 Kawada-cho Shinjuku-ku Tokyo Japan 〒162-8666  
Tel:03-3353-8111 Ext.25229 Fax:03-3358-1424 Mail:ics-japan@info.email.ne.jp

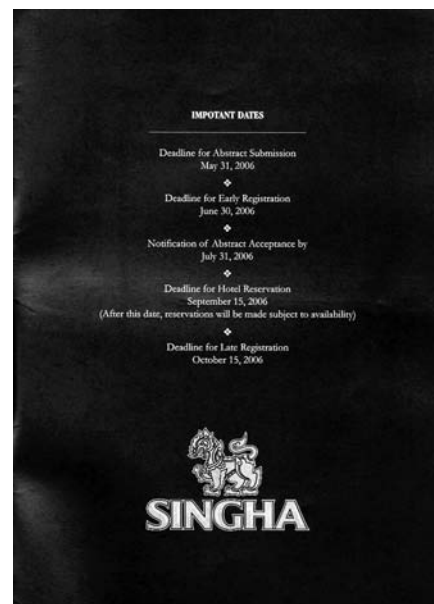
## 第35回世界総会会告

第35回世界総会は、2006年下記の様にタイのプーケットで開催されます。ご発表の希望があれば、事務局までお申し出ください。優先的にプログラムに組んで頂く様プログラム委員会に連絡いたします。

会 期：October 25-29, 2006  
場 所：Pattaya, Thailand  
演題メ切り：May 31 2006

### October 22-26, 2006 XXXV ICS World Congress Pattaya, Thailand

Contact: ICS, Thailand Section  
Dr. Vithya Vathanophas  
2 Soi Soonvijai  
Petchburi Road  
Bangkok 10320, Thailand  
Tel/Fax: 66-2-716-5957  
E-mail: sivvn@mahidol.ac.th



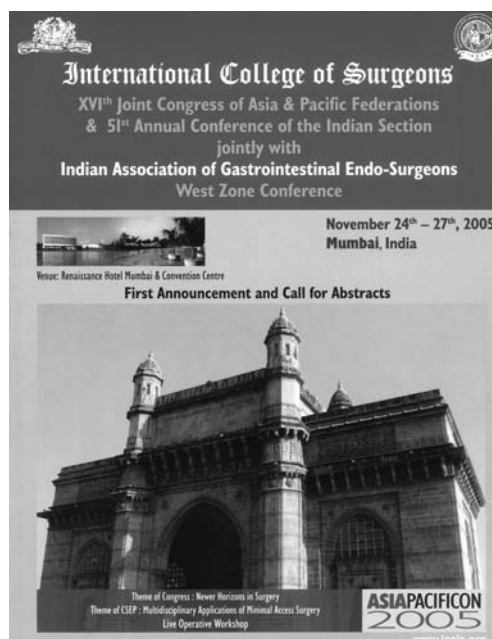
## アジア会議会告

2005年11月24日から27日まで、下記のようにインドのムンバイにて、国際外科学会アジア・太平洋地区会議が開催されます。

November 24-27, 2005

XVI Joint Congress of Asia and Pacific Federations and 51st Annual Conference of the Indian Section  
Mumbai, India

Contact:  
Dr. H. S. Bhanushali  
Organizing Chairman, ASIAPACIFICON2005  
ICS, Indian Section  
I.M.A. House, 16 Keshav Rao Khadye Marg,  
Haji Ali, Mumbai 400 034, India  
Tel: 91.22.2493.4358/5604 5739  
Fax: 91.22.2541.6449  
Email: icsis@rediffmail.com  
Website: www.icsis.org/asiapacificon/index.htm



INTERNATIONAL SURGERY  
Official Journal of the International College of Surgeons



WHY YOU SHOULD **SUBSCRIBE** TO INTERNATIONAL SURGERY

- The truly global scope of our publication makes this journal unique among other resources, bringing the world of surgical advances to you.
- Because of the increasing number of approved articles, the journal is published bimonthly. In addition, in 2005 we will publish two additional supplemental issues, at no extra charge, targeted to specialty areas in surgery.
- Internationally respected peer review committee composed of surgeons from numerous countries.
- It is truly a resource to which all practicing surgeons, surgical interns, and researchers should have quick and easy access (ISSN 0020-8868).

WHY YOU SHOULD **ADVERTISE** IN INTERNATIONAL SURGERY

- International Surgery is an outstanding periodical that gives you the unique opportunity to achieve a global awareness of the products in your company.
- Rates are very competitive.
- Our Journal is read by surgeons in over 117 countries worldwide.

**INTERNATIONAL SURGERY**  
BIMONTHLY  
TWO SUPPLEMENTAL ISSUES

I am interested in:  **subscribing** to International Surgery  
 **advertising** in International Surgery

Name \_\_\_\_\_  
(Please print)

Address \_\_\_\_\_

City \_\_\_\_\_ State \_\_\_\_\_ Postal Code \_\_\_\_\_ Country \_\_\_\_\_

Fax # \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

Subscription Rates: US\$135.00 (Individual) – US\$190.00 (Hospital, Institution, Library)  
Special Discount for Agencies

Make checks payable to *International College of Surgeons*

Enclosed is a check for the amount of US\$ \_\_\_\_\_

Charge US\$ \_\_\_\_\_ to the following credit card:  Visa  MasterCard  
 American Express

Credit card no. \_\_\_\_\_ Expiration date \_\_\_\_\_

Signature \_\_\_\_\_

Please mail or fax this form to: International College of Surgeons  
1516 N. Lake Shore Drive, 3rd Floor, Chicago IL 60610 USA  
Fax: 1.312.787.1624; E-mail: info@icsglobal.org



**tyco**

Healthcare

**Surgical**

# Stapling Revolution



## Directional Stapling Technology

**安全・確実な縫合**

厚く固い組織に対してもねじれがなく  
正確なB型ステープル形成ができます。



**TA™ 45**



**GIA™ 80**

autosuture<sup>®</sup>

医療用具許可番号: 22BY5016

輸入販売元 **タイコ ヘルスケア ジャパン株式会社**

™は米国United States Surgicalの商標です。

〒158-8615 東京都世田谷区用賀 4-10-2 PHONE (03) 5717-1270 FAX (03) 5717-1279 <http://www.tycohealthcare.co.jp>

AstraZeneca 



プロトンポンプ・インヒビター

# オメプラール錠<sup>10</sup>/<sub>20</sub>

Omepral<sup>®</sup> Tablets 10・Tablets 20 オメプラゾール錠

指定医薬品, 処方せん医薬品<sup>(注)</sup> 薬価基準収載

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

プロトンポンプ・インヒビター

# オメプラール<sup>®</sup> 注用20

Omepral<sup>®</sup> Injection 20 オメプラゾールナトリウム注射剤

指定医薬品, 処方せん医薬品<sup>(注)</sup> 薬価基準収載

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、各製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元(資料請求先) アストラゼネカ株式会社 大阪市北区大淀中1丁目1番88号

2005年4月作成



I C S  
Japan Section



〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1  
東京女子医科大学附属消化器病センター内  
Tel (03) 3353-8111 ext.25229  
E-mail: ics-japan@info.email.ne.jp  
Fax (03) 3358-1424